岐阜大学附属図書館報　ISSN 0915－8960

寸　胴

THE GIFU UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN　第16号　1995.6

目　次

二律背反　高見　剛 …… 1
館蔵資料紹介No.7
明治・大正・昭和期教育関係新聞雑誌完全復刻版コレクション　梶山　雅史 …… 3
教官推薦図書
『精神と物質』　鈴木　徹 …… 5
『ワンダフル・ライフ』　山本　謙也 …… 5
グラフで見る附属図書館統計 …… 6
附属図書館自己評価について …… 8
教官寄贈図書 …… 10
平成7年度岐阜大学附属図書館関係委員会委員 …… 11
職員の異動 …… 11
お知らせ …… 11
図書館員から一言　高木　昭 …… 12
西　由美子 …… 12
年間開館スケジュール …… 12

二　律　背　反

高　見　　剛

今日，アルツハイマー病は新聞やテレビなどのマスコミのせいもあって，医療に携わる人のみならず，一般の，特に中高年の人達も知っている病名となっています。齢をとるにつれ誰でも多少は物忘れをする（記憶障害）ようになり，時間や空間の理解が悪くなります（見当識障害）。普通の健康な人に比べてこの程度が強かったり，初老期にこのような状態になると“痴呆（ボケる）”と呼ばれるようになるわけです。

痴呆には脳の動脈硬化や梗塞，出血を主な原因とする脳血管性痴呆と，加齢を背景とするアルツハイマー型老年痴呆，初老期に発症し老年痴呆より失語，失行，失認などの症状が強いアルツハイマー病，の３つの病型があるとされています。脳血管性痴呆は根源的には動脈硬化が関係するのですから，高血圧にならないように気を配ったり，動脈硬化の促進因子である血中脂質が上昇しないように食餌に気をつけることである程度は妨げることができます。老年期痴呆は“生きる”という事に伴う宿命のようなもので，歳老いても元気でお嫁さんや孫たちのあげ足をとって嫌われるより少々ボケて穏やかに暮らしなさいとの神様の思し召しなのかもしれません。一方，未だ原因不明のアルツハイマー病は平均年齢50歳前半に発症します。すなわち大多数の同年代の人達が活発に社会活動をしている年齢で痴呆に陥るということであり，中高年の人達が恐れる大きな理由となっています。アルツハイマー病は1907年Aloys Alzheimerが，51歳で記憶障害，見当識障害で発病しその後痴呆が進行して５年の経過で死亡した女性患者を報告したことに由来します。彼の師であり当時のドイツ精神医学の巨星Emil Kraepelinが，その教科書「精神医学」の中でアルツハイマー病と命名して記載したのが始まりです。

A.Alzheimer（1864～1915）はバイエルン王国（現ドイツバイエルン州）の小さな街マルクトブライトに生まれました。マイン川を望む街の高台には石造り二階建ての彼の生家が今も残っており，1989年に壁につけられたプレートにはGeburtshaus von Aloys Alzheimer（アロイス・アルツハイマー生家）の文字が刻まれています。1912年にAlzheimerはブレスラウ（ポーランド）の教授に任命され，新任地に移る旅行中に扁桃炎にかかり腎炎と関節炎を併発しました。そして第一次世界大戦の戦局悪化の中で，Alzheimerは尿毒症に陥り51歳という短い生涯を閉じたのです。彼の遺体は世界大戦のさなかフランクフルトに運ばれました。フランクフルトの中

央墓地にある苔むした墓石には，1901年に亡くなった夫人Cecile Alzheimerの名と1915年12月19日という命日が微かに読みとれるAloys Alzheimerの名が今も残っています。

Alzheimerの1911年の論文には，今日私たちが顕微鏡下に観るのと寸分違わぬアルツハイマー病特有の神経細胞の変化をスケッチした図が掲載されています（図）。このような偉業はどのようにして生まれたのでしょう。Alzheimerが医学部を卒業した1887年頃は顕微鏡が発明されて半世紀以上が過ぎ，一般の研究室にも普及してきた時代にあたります。血流の停滞やその成分の変化が病気の源であるとする体液病理学に抗し，「細胞は細胞から生じ」この細胞および細胞群の変化によってはじめて病気が発生するという細胞病理学説をVirchowが唱えたのが1858年ですから，近代医学の黎明期に若きAlzheimerは研究を始めたことになります。さらに，4歳年上のニッスルとの出会いがあります。Alzheimerは1888年フランクフルト市立精神療養所に職を得ましたが，翌年ニッスルが同僚として療養所にやってきました。このニッスルはミュンヘン大学のグッデンが募った「大脳皮質の神経細胞の病的変化」という懸賞論文に医学生でありながら一等を獲得した俊英だったのです。以来，精神科医のニッスルとアルツハイマーは患者を診るかたわら，空いた時間や夜に脳組織病理学の研究に没頭しました。これらの背景に加え，前出のニッスル染色（1885年），ワイゲルトのグリア線維染色（1895年），ビルショウスキーの神経原線維染色（1903年）といった今日も使われている神経細胞の新しい染色方法が次々と開発された時代でもありました。Alzheimerはこのビルショウスキー法を用いて，アルツハイマー病の脳組織病理学的特徴のひとつ「神経原線維変化（neurofibrillary tangle : NFT)」を染めだしたわけです。

図　アルツハイマーの「1911年の論文」の第9図．神経細胞にみられる特有の神経原線維変化末期像，ビルショウスキー染色

このように書き進めて来ますと，あたかも私が医学史に興味を持ちAlzheimerの足跡をたどってヨーロッパを彷徨したかのように思われる人もいるかもしれませんが，事実は違います。アルツハイマー病に興味を持った数人の日本人医学者が，古い記録を掘り起こしまとめたものを参考にして書いているに過ぎません。それにしても彼の死後80年を経た今日に，一大学教授の足跡をたどることができるということはすごいことだと思います。100年後に私の生涯に関する記録が残っている可能性は今のところ皆無ですから，自叙伝を自費出版して国会図書館にでも寄贈するしかなさそうです。

このようにありとあらゆる情報が図書館に集められ保存されますが，そこには2種類の相反する異質のものが含まれているように思われます。第一は新しい情報が要求されるという現実であり，特に自然科学の領域では神経質にならざるを得ません。苦労して仕上げた研究が半年も前に発表されていたなら，研究の独創性はなく受けるダメージは少なくありません。既にいくつかの雑誌がE-mailによる購読システムを売り出していますが，これはより新しい情報をより速くという究極の形でしょう。これに反し過去の資料を調べることができるのも図書館の重要な機能です。美術，言語学，文学などはこちらの機能を図書館に求めているのでしょうが，自然科学の領域でも少ないながらも必要です。医学部・折居忠夫先生はその最終講義（平成7年2月8日）の中で，原著とそれに続いた研究報告と自らの最新の研究成果を踏まえていくつかの報告は誤りであることを指摘し，原著を調べることの重要性に触れられました。私自身も医学生の頃教科書に出てきたKruckenberg腫瘍を何故か調べたくなり，変色しバラバラになりかけた雑誌にあるKruckenbergのスケッチが教科書が言うような粘液産生腺癌のみならず，腺癌の種々の相を示していることを見てなにかしらシラケた気持ちになった憶えがあります。

このように図書館は新しい情報を提供する機能と，古い資料も提供できるという異なった機能が求められています。とくに限られたスペースと少ない人員という環境を考えますと，新しい情報を速くたくさん集めることは，収集した膨大な量の資料を保存することと相反するものになっていると思います。私自身はこの解決策を持ち合わせず，図書館専門職員の腕の見せどころでもありその健闘を大いに期待するものです。

（たかみ　つよし：医学部教授）

館蔵資料紹介 No. 7

明治・大正・昭和期教育関係新聞雑誌完全復刻版コレクション

梶　山　雅　史

本コレクションは，明治，大正，昭和三代にわたる教育思想，教育実践さらに時事問題をめぐる世論の動向など，大量の教育情報を収載した９種の新聞雑誌資料からなっている。

文部省から大型コレクション特別購入費639万円を得て，平成３年12月に整備をおえ，本館に開架式で架蔵されている。

まず，コレクションの構成と刊行年代を紹介しておこう。

『教育報知』（明治18年－37年）　34冊
『教育公報』（明治29年－40年）　11冊
『教育学術界』（明治32年－大正元年）　49冊
『帝国教育』（明治42年－昭和７年）　142冊
『教育問題研究』（大正９年－昭和８年）　59冊
『教育の世紀』（大正12年－昭和２年）　17冊
『教育週報』（大正14年－昭和19年　但し昭和７年－13年は除く）　13冊
『全国小学校連合女教員会雑誌』（大正14年－昭和18年）　19冊
『教育研究』（明治37年－昭和25年　但し昭和16年－21年までは休刊のため除く）　83冊
復刻製本版　総数　427冊

これらは，いずれも各時代を代表する有力紙誌であり、日本近代の教育の歩み，その曲折・明暗を如実に伝える貴重な資料群である。

ご存知のごとく，日本の教育は明治初年以来，欧米教育思想の導入，天皇制教育の成立，大正デモクラシー下新教育運動の展開，戦時教育の進行，そして戦後新教育への転換と，二転三転する大きなうねりを経て，いままた第三の学制改革と呼ばれる教育システムの改変が進行しつつある。

時代の転換を前にして，これらの新聞雑誌に刻まれた教育の姿は，我々にじつに多くの事を語りかけてくる。これらの新聞雑誌を総体として眺め，問いかけていくならば，日本近代教育の意味と現在の位置がかなりのところまで明白になってくるにちがいない。

ここで資料としての新聞雑誌について，コメントしておこう。

一昔前ならば，著名な人物の著作や研究機関の調査資料あるいは古記録，古文書類といった文献が尊重され，このような新聞雑誌を大金をはたいて収集することに首をかしげる向きが少なくはなかった。

しかしながら，考現学や社会史研究が浮上しつつある今日，新聞雑誌を学術研究の対象とすることへの抵抗，非難はもはやなくなったといえよう。むしろ，日本の近・現代を研究するには，新聞雑誌は不可欠の資料であるとの認識が一段と深まっている。

吉野作造の見識，宮武外骨の執念，瀬木博尚の篤志によって，昭和２年（1927），東京帝国大学法学部に設立された明治新聞雑誌文庫については，すでに多くの方がご存知であろう。宮武外骨が着手し，そこに蒐集された膨大な新聞雑誌は，今日，類例のない貴重史料，近代史研究者の宝庫として，ますますその声価が高まっている。

「偏った学説に歪曲された論文よりも『生ま』に時代の空気が伝わってくる新聞，雑誌にこそ真の意味の資料性がある」（吉野孝雄著『宮武外骨』）。この名言は，私にとっても，明治新聞雑誌文庫に足を運ぶ度に噛みしめる鮮烈な実感であった。

発行部数の多さ，また製本，紙質の面からも，いっぱんに新聞雑誌は，格別に保存されることは稀である。大半はつぎつぎと廃棄され，またたくまに散逸の運命をたどっていく。バックナンバー全冊の現物に接することは，実に困難となっている。

本コレクションの原版も，明治新聞雑誌文庫の世話になったものが少なくないと聞く。

教育学関係の学会で，新聞雑誌資料の重要性が自覚されはじめ，教育雑誌の復刻作業がいくつかの出

版社によって手掛けられはじめて，ともあれ十数年が経つ。全国の所蔵機関に問い合わせ，複写許可をとり，書誌的吟味を重ねて，全巻復刻を実現するには，気の遠くなるような苦労があったに違いない。貴重な教育雑誌・新聞の完全復刻版の完成は，まことに有り難いことである。とはいえ，復刻限定セットは廉価ではない。

平成3年度大型コレクションに採択され，本学に9タイトルの主要な完全復刻版コレクションが一挙に揃ったのは，実に幸運であった。

5年前，本コレクション申請時に作成した理由書は，大仰な文体で気恥ずかしいのだが，その一節につぎのように記した。

「教員の資質，能力の向上という今日的重要課題にかかわって，教育研究者間では，近代日本の学校教育発足以降，現代に至る教育遺産の歴史的また理論的検討が不可欠の基礎作業となっている。左記の貴重な資料が本学に蔵置されることによって，本学内外の研究者による各教科教育の研究ならびに教育内容，方法等をめぐる多様な共同研究の推進が可能となる……」。

明治6年（1873）設立の師範研習学校にはじまる本学の教育学部は，このたび，平成7年4月に大学院教育学研究科修士課程の設置となった。この間，教科教育学をはじめ関連分野の研究者，学生に多く活用していただけたのは実に嬉しいことであった。そして大学院学生にとって本コレクションは，教育研究情報の宝庫となるにちがいない。論文作成の資料源として大いに活用していただきたい。

大学院教育学研究科の発足を記念して，今回，「館蔵資料紹介」に，本コレクションを紹介することとなった次第。今後，刊行されつつある貴重な復刻教育雑誌を加え，本コレクションのいっそうの充実を願ってやまない。

以下，紙面のゆるすかぎり，簡略ながら諸誌の特質について紹介しておきたい。

明治18年創刊の『教育報知』は，同年に発刊された『教育時論』と双璧をなす近代教育ジャーナリズムの一方の雄というべき教育雑誌である。報道，評論を重視して編集されており，教育情報媒体として明治中期の教育界に大きな機能を果たした。

『教育公報』（明治29年－40年）と『帝国教育』（明治42年－昭和7年）は，戦前最大の教育団体である帝国教育会の機関誌である。教育学説，教育上の諸問題について，「著名人の論稿を数多く掲載している点で異彩を放つ」ものといえる。

『教育学術界』（明治32年－大正元年）は，早稲田，慶応，東京高師さらには帝国大学におよぶ編集陣によって編纂が受け継がれ，誌名が示すように学術性，理論性の高さに本領を発揮した。

『教育問題研究』（大正9年－昭和8年）は，沢柳政太郎，小原國芳ら成城学園同人の機関誌であり，大正デモクラシーの土壌から，リベラルな新教育の潮流を代表し，新教育の理論と実践の実体を克明に伝え，大正～昭和初期にかけて全国教育界に大きな影響を与えた。

『教育の世紀』（大正12年－昭和2年）は，大正末期に教育改造運動の推進を目的として設立された教育の世紀社の機関誌であり，同時代のリベラリズムの頂点を担った教育雑誌である。児童の村小学校の準機関誌的役割も兼ねていた。

『教育週報』（大正14年－昭和19年）は，「新聞より正確に，雑誌より広く敏速に」をスローガンに、為藤五郎が創ったわが国最初の週刊教育紙である。収録記事の豊富さと幅の広さは，内外の教育動向を敏感に伝え，他の雑誌や機関誌の追随を許さぬものであった。人物，学校，教育団体，政府にたいする評価，事歴を通しての教育動向の把握，掲載はまさにこの週報の独壇場であったと評されている。

『全国小学校連合女教員会雑誌』（大正14年－昭和18年）は，大正13年に帝国教育会の肝煎りで結成された全国小学校連合女教員会の機関誌である。女性教師の地位と教育力量の向上をめざした当時の女性教師たちの運動，さらには戦時体制に組みこまれていく様相を録した貴重なドキュメントといえる。

『教育研究』（明治37年－昭和25年）は，国定教科書使用実施の明治37年に，東京高等師範学校附属小学校に組織された初等教育研究会の機関誌である。戦前，戦後を通じて，全国小学校教育の総合的啓蒙誌として，指導的立場を保ちつづけた。いわば明治，大正，昭和三代にわたる日本の教育思潮，教育実践の背骨そのものを示している。

初等教育研究会の主要メンバーとして理科教育分野に執筆し続けた棚橋源太郎は，岐阜師範学校に学び，さらに東京師範学校を卒業し，明治29年から4年間，岐阜県師範学校で教鞭をとり，その後、東京高等師範学校教諭さらに教授となった人物である。

棚橋源太郎を介して岐阜と東京を結ぶ教育情報回路のありようは実に興味がつきない。

（かじやま　まさふみ：教育学部教授）
（本図書の配置場所：3階開架コレクションコーナー）

教官推薦図書

教官から，その専門分野を専攻しようとする学生に先ず薦めたい入門書・基本図書，あるいは，より多くの教官・学生に教養書として是非一読を薦めたい図書を紹介していただいています。

『精　神　と　物　質』

（立花隆・利根川進　文芸春秋社）

鈴木　　徹

1987年，分子生物学者でノーベル賞受賞者の利根川進氏が『抗体の多様性生成の遺伝学的原理の解明』というノーベル賞を受賞したことは、まだまだ記憶に新しい。この本は、ジャーナリストの立花隆が，利根川進にインタビューしたものである。表題の『精神と物質』というテーマに関して書かれているのは最後の７ページだけで，これに期待してページを開いた人は，少々面食らうかもしれない。

世界一流の研究者が，当時は奇想天外ともいえるテーマに立ち向かった時に，どのように考え，実験を進めていったか，研究内容の入門書的な説明と共に生々しく語られている。彼が，核酸のハイブリダイゼーションやクローニング，シークェンシングなどの当時の生まれたばかりの革新的研究手法を採り入れ，免疫の本体である抗体タンパク質の多様性のメカニズムをいかに解明していったかが解り，興味深い。科学的な内容は，高校で生物を学んだ人なら理解できるように書いたとあるが，門外漢には少々難解かもしれない。逆に，生物を学んでいる学部の３年生以上なら，完全に理解できなければ勉強不足。

所々で述べられている彼の研究哲学と言える部分は，日々雑用に追われて凡々と暮らしている我々にとって，痛烈なアイロニーにも聞こえてくる。

「……いくら失敗しても決してあきらめないで，ずっと研究をつづけられるというのがサイエンティストの基本条件でしょうね。失敗に失敗を重ねて，これでもダメ，あれでもダメで，ずーっと追いつめられていくうちに，どこかでブレイクスルーが見つかるんですね。その間ずっとああでもない，こうでもないと考えつづけていないと，ブレークスルーには出会えない。」等々。この本を読んで「おれも，一丁やってやるか！」と思えば最高だ。

（すずきとおる：農学部助教授）
（配置場所：３階開架464Tat）

『ワンダフル・ライフ』

（スティーヴン・ジェイ・グールド著　早川書房）

山本謙也

５億３千万年前の海の中に思いを馳せてみよう。そこには花開いたばかりの数多くの無脊椎動物たちの世界があった。そして，その中には現在の地球上では見られない，奇妙きてれつな体のデザインを持つ動物たちがいた：体長１メートルを越える巨大な捕食動物アノマロカリス，５つの眼と長いノズルを持ったオパビニア……。カナディアンロッキー山中で発見されたバージェス頁岩化石動物群が描き出した，この驚くべき世界については，昨年のＮＨＫテレビでもとり上げられたので，ご存じの方もおられよう。この古生代初期からの“タイムカプセル”ともいうべき化石群が明らかにしたドラマを，初めて一般に紹介したのが本書である。

個々の動物が化石からどのように再現されたかを，グールドはかなりのページ数をさいて詳細に説明しているが，専門外の読者でも決して退屈しない。はじめ奇妙なエビの一種，奇妙なクラゲの一種と考えられていたものが実はそれぞれ，上で述べたアノマロカリスの付属肢，口であったことが判明するところなど，まるでミステリーを読んでいるかのようなおもしろさである。

グールドは我々の生命観・進化観の変更を迫る。生物の多様性は時間ともに徐々に拡がっていくのではなく，全体としてみればむしろ初期に最大のバラエティがあったのではないか？　その中で生き残る種，死に絶える種をふりわけたのは偶然だったのではないか？　エピローグで紹介されるのが，我々の先祖（かもしれない），脊索動物のピカイアである。この体長５センチにも満たない，頼りない（？）生き物がたまたま生き残ったことが我々の存在につながったのだとしたら……。やはり生命は奇蹟というしかあるまい。

（やまもとけんや：教養部助教授）
（配置場所：３階開架457.8Gou）

グラフで見る附属図書館統計

平成６年度末現在で過去５年間の資料の所蔵状況及び利用動向の各種統計をグラフで表しました。

蔵書冊数

雑誌種類数

年間図書受入冊数

年間雑誌受入種類数

入館者数

平成６年度月別入館者数

貸出図書冊数

図書館間相互利用（文献複写：依頼）

図書館間相互利用（文献複写：受付）

図書館間相互利用（貸出）

図書館間相互利用（借用）

オンライン・CD－ROM情報検索

平成６年度より医学部分館でCDPNet2／UNIX版が稼働

附属図書館自己評価について

附属図書館自己評価について

平成6年度の附属図書館自己評価委員会では，前年度にとりまとめた附属図書館の現状と課題（注）の内容を基に，平成6年度における改善状況と残された検討課題の明確化に努め，その結果を一覧表にまとめました。

これらの検討課題の改善，図書館機能の強化・高度化に向けて，全学の多大なる支援をお願いします。

（注）『明日をめざす岐阜大学』第4章第1節：附属図書館　平成6年3月刊　pp.209-223参照

〔評価検討項目〕	〔改善状況・検討課題〕
1　利用者へのサービス	
(1)　資料提供サービス	
①　図書館内利用	・入学式等の臨時の休館日を最小限にした。
○開館日の拡大	・月曜日の開館時間を午後10時まで延長した。（本館）
○開館時間の延長	・土曜日に開館時間を午前から午後（午後0時～4時）に変更し1時間延長した。（本館） ・第2火曜日の午後を開館することとした。（分館） ・土曜日の開館時間を午前から午後（午後1時～5時）に変更し1時間延長した。（分館）
○土曜開館のサービスの充実	・貸出，返却，OPACの利用も可能にした。 なお，私費による複写サービスの希望がある。
○閲覧環境	・快適な冷・暖房の環境を整備する必要がある。
○24時間開館	・医学部統合移転に向けて検討している。（分館）
○学外者へのサービスの充実	・文献複写の迅速化及び土曜日・夜間開館における私費による複写サービスの希望がある。
(2)　情報提供サービス	
①　参考調査サービス	
○文献情報調査法	・情報処理学カリキュラムの一環としての文献情報調査法のガイダンスを取り入れ，教育研究活動を促進させる。
②　情報検索サービス	
1）学内検索の利用	
○OPACの利用拡大	・学内LANを利用して，24時間サービスが可能となった。 ・館内のOPAC端末を1台増設した。更に増設を図る。
2）CD－ROM検索の利用	
○MEDLINE文献検索の利用促進	・ファイルサーバの導入により，学内LANを介して利用出来るようになった。 ・検索講習会を実施した。引き続き実施し利用の促進を図る。
(3)　相互利用	
②　ILL（図書館間相互貸借）	
文献複写	
○文献複写（館内）の利便と予算振替	・キーカウンター方式から個人カード方式に変更したことで，利用者の利便を図り予算振替を容易にした。
○BLDSC へのオンライン依頼	・郵送で行っていたが，ILLシステムからオンラインで行うことが可能になった。
2　図書館資料の整備	
(1)　資料の所蔵状況	
○視聴覚資料の充実	・CD－ROM，ビデオソフト等視聴覚資料の財源の確保が必要である。
(2)　資料の選定及び収集	
①　学生用図書	
○学生用図書費の学内予算措置	・文部省予算の他に，継続的な学内予算の手当てを図り十分な収集を図る。

〔評価検討項目〕	〔改善状況・検討課題〕
○留学生向け資料の充実	・外国人留学生の増加に伴い，留学生向けの図書資料の充実を図る必要がある。
② 基本図書	
○基本図書費の学内予算の拡大と計画的・重点的収集	・学内予算の拡大を図り，資料の増大・高騰化に対応する。 ・高額なものについては，研究用図書との整合性を図り，計画的・重点的な収集を図る。
③ 研究用図書	
○研究用図書の重複購入の抑制	・高額なものについては，重複購入を抑制し，共同利用を図る。
○研究用図書の早期返納による有効利用	・早期返納を促し，資料の有効利用を図ることで，資料購入費の不足をカバーする。
④ CD－ROM	
○CD－ROMの選択	・高額な二次資料等の印刷体かCD－ROMかの選択の検討が必要である。
○CD－ROM予算の確保	・CD－ROMの増大に伴う予算，特にMEDLINE等継続的な予算の確保を図る必要がある。
⑤ 学術雑誌	
○集中化の促進	・全ての雑誌を図書館に配架し，効率的な運用の改善を図る。
○外国雑誌購入費の抑制	・平成7年度に向けて，競争原理導入の対象雑誌の拡大を図った。さらなる導入により資料費の抑制を図る。
(3) 資料の受入れ	
○図書の受入れの遅滞	・業務量の増大，定員削減による人員不足により図書の受入れが遅滞する。
(4) 資料の組織化	
○自館目録データベースの質的向上	・重複書誌については，学術情報センターのデータに置き換えることにより精度を高めている。
○雑誌目次速報データベースの構築に参加	・フロッピーによる登録から，学情メールを使用してオンラインで登録・修正が出来るように変更する。
○特別資料室の目録整備	・特別資料室の目録が一部不備のため，整備が必要である。
○遡及入力	・委託業務による措置が必要である。
(5) 蔵書構成	
○バランスのとれた資料の構築	・基礎科学，人文・社会科学分野の基本図書の欠落への対処が必要である。
○参考図書の充実	・参考図書の新版への置き換え，見直し，充実が必要である。 （参考図書　CD－ROM版等）
(6) 資料の保存	
○破損本，酸性劣化資料の保存対策	・環境整備，中性紙本箱・袋による保護，帙作成，修理製本，防虫剤の挿入等の処理を行っている。
○貴重資料のマイクロ化	・マイクロ化実施の計画を策定し，その経費の確保が必要である。
3 学術情報システム	
○CDファイルサーバによる情報検索サービスの提供	・ファイルサーバを導入し，MEDLINEを学内LANで提供出来るようにした。
○次期電算機システムの更新	・次期更新時（平成7年度）にUNIXワークステーションを一部導入する。
○各種業務やOPACのレスポンスの向上	・システム負荷を分散し，レスポンスや作業性の向上を図る。
4 施設・設備の整備及び利用状況	
○資料の収蔵スペースの確保	・書庫の増築を概算要求している。（本館） ・医学部統合移転に向けて検討している。（分館）
○閲覧，視聴覚スペース等の確保	・情報化，国際化あるいは生涯学習等の新しいニーズに対応するためのスペースの確保が必要である。
○ニューメディア対応の設備・機器の整備	・学内LAN対応の利用者端末や，ニューメディア対応の設備・機器の整備を図る。

〔評価検討項目〕	〔改善状況・検討課題〕
5　図書館職員・運営	
(1)　職員の組織・構成	
○組織機構	・行政改革に伴って定削が遂行され，資料の収集や情報の提供という面で支えている図書館の定員のあり方について問題点を把握し，その対応について検討しておかなければならない。
○図書館運営費	・省力化・低減化を図る一方，定削に伴う図書館サービスの低下を防ぐための人件費の手当が必要である。 ・利用者サービスの改善による開館時間の延長，休日開館（土曜日）に伴う光熱水料等の確保が必要である。
(2)　職員の人事・研修	
○研修計画	・情報処理に携わる専門職員の養成が必要である。
6　地域図書館との関連	
○岐阜県大学図書館協議会	・岐阜県内大学図書館の振興を図り，職員の資質の向上を図る。
○岐阜県図書館協会の相互協力	・「相互協力部会」が設けられ，方策及び実施計画が検討されている。

教官寄贈図書

ここには学内の教官が著作・編集・刊行等に関係した図書で，図書館に寄贈された分を掲載しています。御寄贈ありがとうございます。今後共ご協力をお願いします。

服部　伸（教育学部）
近代ドイツの専門職　チャールズ E. マクレランド著　望田幸男監訳　晃洋書房　1993
野元　世紀（教育学部）
雲南フィールドノート　吉野正敏編　古今書院　1993
小池　正行（教育学部）
英国分離諸派の運命　小池正行著　木鐸社　1993
御宿　正司（教育学部）
御宿正司素描集　1994
横山　悦生（教育学部）
文部省著作家庭科教科書　別巻　大空社　1993
山内　克典（教育学部）
長良川下流域生物相調査報告書　長良川下流域生物相調査団　1994
碓井知鶴子（教育学部）
女子教育の近代と現代　碓井知鶴子　近代文藝社　1994
小出　浩之（医学部）
無意識の発見　岩波書店　1993
ラカンの仕事　ビチェ・ベンヴェヌート著　小出浩之，若園明彦訳　青土社　1994
ラカンと精神分析の基本問題　小出浩之編　弘文堂　1993
伊藤　亮（医学部）
NEW 寄生虫病学　小島荘明編　南江堂　1993
鈴木　雅雄（医学部）
食道表在癌　吉田操ほか編　医学書院　1993
柴山　麿樹（医学部）
肺癌のX線診断　柴山麿樹著　メジカルビュー社　1992
新・画像診断のための解剖図譜　柴山麿樹著　メジカルビュー社　1990
土肥　修司（医学部）
麻酔と蘇生　土肥修司著　中央公論社　1993
野澤　義則（医学部）
生体膜のバイオダイナミクス　野澤義則，大木和夫著　羊土社　1993
生体膜編　野沢義則ほか編　共立出版　1994
岩田　弘敏（医学部）
衛生学的にみたレイノー現象　岩田弘敏，井奈波良一著　新制作社　1992
森　秀樹（医学部）
Antimutagenesis and anticarcinogenesis mechanisms Ⅲ　ed. by Giorgio Bronzetti　1993
がん抑制の食品　西野輔翼編　法研　1994
玉舎　輝彦（医学部）
医者がすすめる専門病院　名古屋タイムズ社編　ライフ企画　1989
大塚　節子（医学部）
臨床と血液型　澤口彰子ほか編　朝倉書店　1993
輸血後GVHD　十字猛夫，伊藤和彦編著　金芳堂　1994
土井　偉誉（医学部）
老人保健法による健康診査マニュアル　日本医事新報社　1994
消化管の癌の画像診断　土井偉誉編　秀潤社　1994
松波　謙一（医学部）
Primatology today ed. by Akiyoshi Ehara Elsevier Science pub. 1991
運動と脳　松波謙一著　紀伊国屋書店　1986
佐治　重豊（医学部）
外科医のための癌治療マニュアル　佐治重豊，峠哲哉編　メディカルレビュー社　1994
中村　三夫（農学部）
カキの生理生態と栽培新技術　中村三夫，福井博一共著　1994
寺島　隆吉（教養部）
新英語教育講座　1巻～20巻　寺島隆吉ほか編　三友社出版　1988

平成7年度岐阜大学附属図書館関係委員会委員

	附属図書館委員会委員	資料選定委員会委員	館報編集委員会委員	自己評価委員会委員	図書・紀要編集委員会委員（医学部分館）
館長	梶山雅史	梶山雅史	梶山雅史	梶山雅史	
医学部分館長	岩田弘敏	岩田弘敏		岩田弘敏	岩田弘敏
教育学部	早川万年	早川万年			岡野幸雄
〃	岩田惠司			岩田惠司	藤原久義
医学部	岡野幸雄			岡野幸雄	玉舍輝彦
〃	山田鉄也	山田鉄也			小野塚實
工学部	佐々木堂			佐々木堂	李憲
〃	廣瀬素尚	廣瀬素尚			山田鉄也
農学部	上吉道治	上吉道治		上吉道治	奥富直
〃	大橋英雄		大橋英雄		齊尾征直
教養部	中村勝人		中村勝人	中村勝人	山田貴章
〃	杉森弘幸	杉森弘幸			猿井宏
医療技術短期大学部	山崎捨夫	山崎捨夫	山崎捨夫	山崎捨夫	高津敏郎
事務部		大西隆司	森生也	渡邊正人	
		小林かず子	小林かず子	大西隆司	
		中齋二三博	上口正昭	森生也	

職員の異動 平成7年1月～4月

3.30　川合　妙実　退職（情報サービス課医学部分館図書係）

4. 1　鈴木　精一　情報管理課総務係長（医療技術短期大学部庶務係長）

〃　西　由美子　情報サービス課参考調査係（豊橋技術科学大学教務部図書課）

4. 1　辻　八月　情報サービス課医学部分館図書係（採用）

〃　間所　晃　医学部医事課専門員（情報管理課総務係長）

〃　黒柳　裕子　豊橋技術科学大学教務部図書課（情報サービス課参考調査係）

（　）内は前職名を示す

お知らせ

・CD－ROMの利用について

附属図書館では，平成6年度教育研究学内特別経費等によりCD－ROM版のCASurveyorとCurrent Contentsを購入しました。

CASurveyorは，Chemical Abstractsからトピックスを抽出したものに化学物質データを追加した内容になっています。今回購入したのは，15種類の全トピックスの内6種類（CD－ROM6枚）です。特徴としては，分子式，CAS 登録番号から検索することができ抄録，構造式を表示することができます。収録期間は，1993～1995年で，年3回更新されます。

Current Contentsは，学術雑誌の新着目次速報データベースです。更新は，毎週行われますので常に1年分のデータから検索が可能です。検索は，一般的な項目の他に抄録中の単語からも可能です。今回購入したのは，4分野の内3分野です。検索機器は，2階カウンターの斜め前に設置してありますのでご利用ください。

・医学解剖ソフトウェア（A.D.A.M.）

医学部分館に，マッキントッシュコンピュータで検索できる医学解剖ソフトウェア(A.D.A.M. ）の日本語版を購入しました。1階にコンピュータを設置して利用できるようにしてありますので解剖学の学習等にご利用ください。なお，詳しいことを知りたい方は図書係にお問い合わせください。

・私費による文献複写について

医学部分館に，私費用の文献複写機（コイン式）が設置されましたので，ご利用ください。

利用時間　平日　16時～19時50分
　　土曜日　13時～16時50分

図書館員から一言

高木　昭

昨年4月に名古屋工業大学より転任してきました。

私の所属する目録情報係では医学部を含めた受入図書の目録作成・装備並びに学術情報センターへの登録，教官研究図書の貸出・返却等の業務を行っています。

この目録作業によるデータが図書館内や各研究室からのOPAC検索により反映されることを考えると責任の重さを痛感します。

今後とも迅速で正確な目録作業を心掛けていきたいと思います。

（たかぎ　あきら：情報管理課目録情報係長）

西　由美子

4月に豊橋技術科学大学から赴任してきたばかりの新入りです。2階の参考カウンターで文献複写等の仕事を担当しています。

図書館員になった当初，良いサービスをするには「人を知る」「資料を知る」「要求を知る」ことが大事と教えられましたが，こちらに来て早速，教官を学生と間違えたり，本の場所が分からなかったり，難しい質問に戸惑ったりと悉く失敗しています。反省しつつ，早くこの図書館に慣れ，利用者の方に信頼されるよう努力したいと思います。

（にし　ゆみこ：情報サービス課参考調査係）

年間開館スケジュール（1995年7月～1996年3月）

1995

7

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	⑪	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	⑧	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	⑭	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	⑫	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	㉘	㉙	㉚
31						

1996

1

日	月	火	水	木	金	土
	1	②	③	④	5	6
7	8	⑨	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	⑫	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

開館時間：平日20時まで（本館は、月曜日のみ22時まで）
土曜日は、本館・12時～16時、医学部分館・13時～17時
休館日：○印、□印、太字／第2火曜日（医学部分館は、午前中のみ休館）
日曜日、国民の祝日・休日、年末年始
夜間開館休止日：＿＿印　／夏季・冬季休業期間中及び3月の平日（本館のみ）
上記以外の臨時休館については、館内掲示等によりお知らせします。

岐阜大学附属図書館報「寸胴」第16号　1995年6月30日
編　集　委員長：梶山雅史　委員：大橋英雄，中村勝人，山崎捨夫，森　生也，小林かず子
上口正昭
発　行　岐阜大学附属図書館
〒501－11 岐阜市柳戸1番1　☎058－230－1111